浙江省の世界文化遺産に関する資源の研究および世界遺産の登録と管理

黄　斌※

訳　水盛涼一[1)]

内容摘要　浙江省は中国東南の沿海部にあり、以前より物産豊富で人口稠密な地域で、“文物の邦”と讃えられてきた。そのため文化史跡は豊富で、遺物も多く種類は豊かであり、鮮明な特色を持ち、世界遺産登録申請への潜在力は大きいのである。とはいえ世界遺産の登録申請は年々困難になっており、遺産管理の要求水準は年々高度になっている。そのため我々は認識と研究をより深め、関係の資源と条件に対して合理的で深い評価を行う必要がある。なかでも価値評価の方面では、地域の特色を強化し、稀有な対象を強調し、普遍的価値を磨き上げ、現在の保護管理と未来の利用予想に関して客観的で持続性のある評価を行い、「世界遺産一覧表」〔中国語原文は『名録』、The World Heritage List〕掲載内容を合理的に選択し定期的に見直し、内外の原因や現実の条件そして未来の展望といった方面から世界遺産登録の可能性を評価し、あわせて保護や管理の研究を的確に強化し、貴重な文化遺産を保護利用していかねばならないのである。

キーワード　世界遺産資源　特色の研究　登録　管理

第一章　浙江省文物の世界遺産登録への潜在力

第一節　文物資源の豊富さ

浙江省は中国東南の沿海部にあり、古来より物産豊富で人口稠密な地域であり、“文物の邦”と讃えられてきた。こうして長く歴史が積み重なり、豊かな文化が伝存したため、文化遺産の保護や利用なかでも世界文化遺産の登録や管理の活動のための良好な基盤を提供しているのである。

（一）文物の伝存量が多いこと　2007年から2012年の五年間にかけて行われた中国の「全国第三次普遍調査」では、わが浙江省ではあわせて13万ヶ所にもおよぶ文物を調査し（正式に調査したものは75286ヶ所、全国の9.29％を占める）、73943ヶ所（全国の9.64％）を登録したのである。また新発見の文物は61728ヶ所であり（全国の11.52％）、中国全国で首位である[2)]。文物の資源調査に関する研究と蓄積という点で、わが浙江省は他省と比べても深く認識し、また先進的に意識している。これは膨大な文物資源の蓄積もこうした業務の潜在力を向上させているといえよう。

※ 浙江省文物考古研究所

1) 本稿の（丸括弧）および脚注は原著者による注、また〔亀甲括弧〕は訳者による補注である。

2)『浙江省第三次全国文物普査工作報告』デジタルファイルより引用。

（二）文物の種類が豊富であること　文物資源は基本的に移動のできないもので、そのなかには地下にある遺跡や墓葬、また地上にある古い建築物、石窟寺院や石刻、近現代史の遺跡や代表的建築、およびその他の六種類を含む。わが浙江省には 1 万 2 千を超える重要文物があり（国家から地域のそれぞれの行政が〔全国・省・市県の三段階で保護を定める〕「文物保護単位」や〔それより下級で例えば杭州市園林文物局などが定める〕「文物保護点」を重点的に保護するために公布する）、それぞれの種類でみな一定の件数があり、また群集性があるという点で特徴を持つ。またわが浙江省は歴史ある都市や村落を最も多く持つ地域で、しかも都市や集落の一体構造や分布展開に明らかな一貫性があるという特色があるのである。こうした特徴により、文物資源を保護し利用する過程における刷新性も増進したのである。

第二節　地域の特徴の明確さ

浙江省は面積こそ狭いものの、地域の特色や文化の特質はかえって豊富な特徴を持ち、全国の文化遺産のなかでも際立っているのである。

（一）地域の歴史蓄積　浙江省には厚い歴史が蓄積している。春秋時代〔紀元前 770 年～紀元前 403 年〕には、浙江省は越国の版図にあり、越王の勾踐は著名な“臥薪嘗胆”のすえに覇業を成し遂げ、春秋五覇のひとりとなった。また五代十国の時代〔907 年～ 960 年〕には、呉越国の王〔907 年に銭鏐が国王となり 978 年まで三代五王にわたって存続した軍閥政権〕が版図をよく鎮めて民心を安定させたため、文物はゆたかで人口も増え、安定的に繁栄し、“東南の仏国”と称されたものである。また〔1127 年に北宋が滅亡し、みやこ開封府を放棄して臨安府へ〕宋の皇室が南渡してくると、浙江省は首都圏となり、経済や社会はいっそう繁栄し、中国の封建社会の頂点に登りつめたのである。明清時代〔1368 年～ 1912 年〕にも経済は発展し、財源となる重要地域とみなされるようになり、文化は繁茂し東南部の集積地となった。こうした歴史の蓄積がまさに文化遺産の伝存へと結実したのである。

（二）地域文化の展開　浙江は中華文明発祥の地のひとつであり、有史以前から文化が発達していた。〔浙江省を横断する〕銭塘江の両岸には河姆渡文化〔紀元前 5000 年頃より紀元前 4500 年頃にかけて杭州湾南岸から舟山群島にわたり存在した新石器時代の文化〕、馬家浜文化〔紀元前 5000 年頃から紀元前 4000 年頃にかけて太湖から杭州湾北岸にわたり存在した新石器時代の文化〕そして良渚文化〔杭州市余杭区良渚鎮に出土した紀元前 3500 年頃から紀元前 2200 年頃にかけての新石器時代後半の文化〕（図 1 を参照）が発生・興隆し、上山遺跡〔金華市浦江県黄宅鎮で発掘された遺跡〕、跨湖橋遺跡〔杭州市蕭山区城廂街道で発掘された遺跡〕、銭山漾遺跡〔湖州市呉興区八里店鎮で発掘された世界最古の絹布片の出土した遺跡〕そして好川遺跡〔麗水市遂昌県三仁郷で発掘された遺跡〕の文化がそれを展開・継承したため、浙江省の有史以前の文化は全国で重要な地位を占めるに到ったのである。また中国は「磁器のふるさと」〔中国語原文では「瓷国」、所謂 Great Porcelain Country〕であるわけだが、浙江省はその磁器のふるさとで、磁器が発生し伸長していった土地にあたり、〔湖州市徳清県開発区で出土した「浙江東苕溪中游商代原始瓷窯址群」といった〕徳清県の殷から周〔紀元前 17 世紀頃～紀元前 771 年〕にかけての原始的な磁器、また〔紹興市上虞区上浦鎮の「鳳凰山窯址群」といった〕上虞区の後漢時代〔紀元後 23 年～ 184 年〕の成熟した磁器、〔寧波市慈溪市鳴鶴鎮の「上林湖越窯遺跡」といった〕慈溪市の唐代〔618 年～ 907 年〕の上林湖の越窯（図 2 を参照）、〔杭州市上城区にある「郊壇下南宋官窯遺跡」を中心とする〕南宋時代〔1127 年～ 1279 年〕の国営の窯、〔麗水市龍泉市小梅鎮の「大窯龍泉窯遺跡」を中心とする〕明代〔1368 年～ 1644 年〕の龍泉大窯（図 3 を参照）など、〔遺跡の面からみても〕秩序だった伝承が行われており、

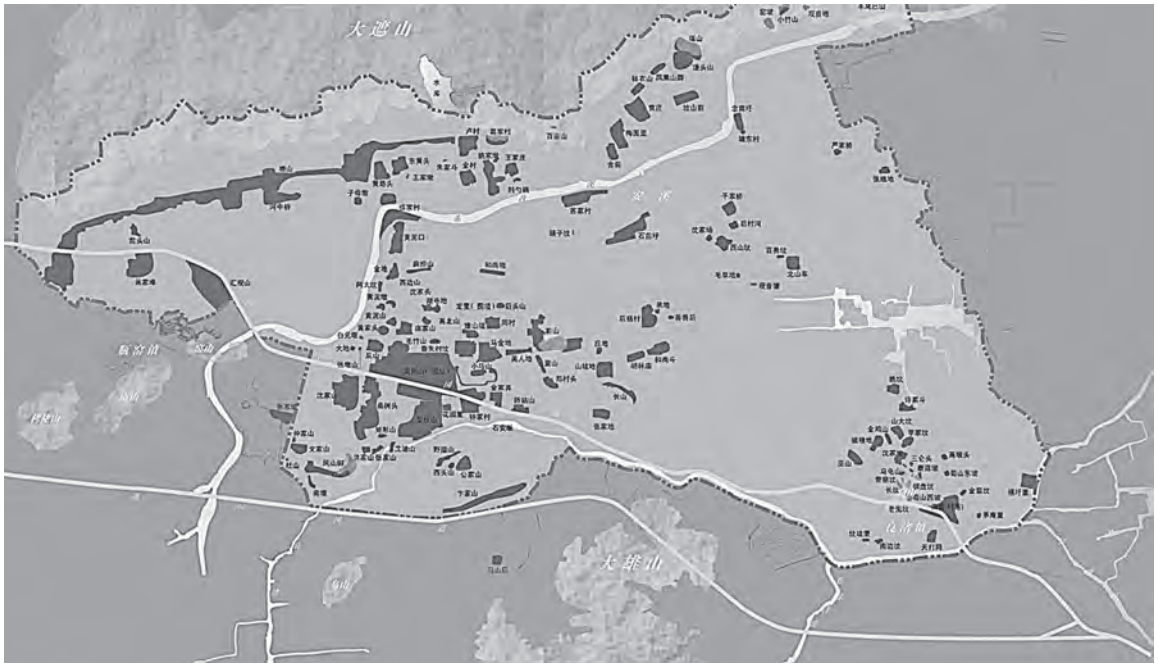


図 1 〔杭州市余杭区〕良渚遺跡



図 2 〔寧波市慈溪市〕上林湖の越窯の遺跡



図３〔麗水市龍泉市〕大窯である龍泉窯の遺跡

浙江の磁器が中国そして世界に占める位置を十分にあらわしているのである。また浙江省は「八山一水両分田」〔全省の八割が山地、一割が河川湖沼、二割が田畑であることをあらわす慣用句〕というように、複雑な地形に異なる文化を持つ人々が住み、豊かで多彩な一族集住モデルが形成された。平原の水郷地帯には〔湖州市南潯区〕南潯鎮・〔湖州市徳清県〕新市鎮・〔嘉興市桐郷市〕烏鎮・〔嘉興市嘉善県〕西塘鎮といった著名な集落が、また山間の盆地には〔金華市〕浦江県の鄭義門・〔杭州市〕富陽区の龍門鎮、〔温州市〕永嘉県の楠渓江、〔金華市蘭渓市の〕諸葛八卦村といった村落がいとなまれたのである。こうした水郷地帯の集落そして〔揚子江最下流域を中心とする〕江南の村落は浙江省に全面的に展開体現しているのである。悠久なる歴史文化、また聡明なる刷新への意識が、浙江省に建築や芸術の方面で突出した才能や創造力をもたらすことにもなった。〔金華市〕東陽市の木雕藝術は「婺州の民間建築」〔婺州は隋代の 589 年に現在の金華市婺城区を治所として開かれた行政区分で、その名称は元朝の 1358 年に廃されるまで継続し、以降も古来の雅称として通用した〕に結実したし、〔麗水市慶元県や温州市泰順県などの〕「木拱廊橋」〔屋根付き橋〕（図４を参照）は世界遺産登録申請運動の高揚を促したものであるが、まさに「巧奪天工」〔技工の巧みさが天然の美をしのぐほどであること〕というべき建築であり、この高揚も当然のものであった。さらに重要なのは、豊富で濃厚な文化の蓄積が頑強なる苦闘精神と結びつき、銭塘江の河口に連綿と千里も続く雄偉なる古海塘〔歴史時代に建築された海岸の堤防〕を作り上げたことである。この古海塘はあたかも巍々とした海上の長城といったおもむきで、強烈なる人文精神と創造力を体現している。文化遺産の保護とは物質であるが、継承とは文化なのである。



図４　廊橋〔屋根付き橋〕である〔浙江省麗水市〕慶元県〔挙水郷〕の如龍橋

第三節　世界遺産登録への巨大な潜在力

世界文化遺産の保護が日増しに重視されている今日、浙江省は中華文明の重要な発祥地の一つであり、また唐宋〔618 年～ 1279 年〕から中国東南部の文化の集積地となったがために、文化遺跡の数量は多く、また種類は豊富で特色も明らかであり、世界遺産登録への潜在力が大きいのである[3)]。

（一）登録の趨勢に符合　世界文化遺産への登録とは、文化多様性の保護を象徴的に体現したものであり、国内外の文化遺産保護に対する高まりのあらわれでもある。現在の中国では、各レベルの行政機関や組織が推進を重視しているうえ、国民の熱心な参加や積極的な活動が加わり、遺産登録はあたかも時勢のホットポイントや活動の焦点のようになっているのである。

（二）登録の条件に適合　世界遺産とは、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）と世界遺産委員会が、歴史上まれにみる掛け替えのない財産と認めたものであり、またこれは人類が顕著な普遍的価値を持つと共通して認識した文化遺産や自然景観なのである。とはいえその含意は複雑で、狭義と広義の意義がある。本稿ではそのうち狭義の意味での世界遺産を取り扱う。すなわち「世界文化遺産」「世界自然遺産」「世界の文化と自然の複合遺産」「文化景観」〔ユネスコの区分としては文化遺産のなか

3) 国家文物局が 2012 年の〔11 月 18 日に実施された全国世界文化遺産工作会議で公布した『中国世界文化遺産予備名単』である〕中国文化遺産の世界遺産登録申請予定リストでは、45 ヶ所の対象のなかで、浙江省単独の登録申請あるいは関係各省との共同申請となる対象は７ヶ所であり、その数量は各省・各市〔省級の直轄市のこと〕・各区〔省級の民族自治区のこと〕のなかで首位であった。

に含まれる〕の四種類である[4)]。

遺産登録が成功するためには、かならず世界遺産の入選基準に合致せねばならない。すなわち「顕著な普遍的価値をはっきりと体現するもの」であることが必須であるのだが、それとともに強い願いと有効な推進もまた欠かすべからざるものである。そしてこの要素こそ、我々は欠失できないばかりか不断に充実させねばならないものなのである。

第二章　世界遺産登録の研究

第一節　世界遺産登録と遺産そのものの存在

（一）登録成功はなお少なく、登録の進行は緩慢　〔世界遺産登録への〕認識〔が遅かったという〕問題により、浙江省の世界遺産保護管理活動は着手が遅く、成功例も少ない。2016 年までの時点で、全国の各省・各区〔省級の民族自治区のこと〕・各市〔省級の直轄市のこと〕で世界遺産となったものは 50 ヶ所におよんでおり、その内訳は文化遺産が 35 ヶ所（文化景観を含む）、自然遺産が 11 ヶ所、複合遺産が 4 ヶ所となっている。

浙江省の隣省と比較すると、上海市（直轄市、0 ヶ所）をのぞき、北方の江蘇省（3 ヶ所）、山東賞（3 ヶ所）、西方の安徽省（3 ヶ所）、江西省（3 ヶ所）、南方の福建省（3 ヶ所）はみな浙江省と同じく 3 ヶ所の世界遺産を有している。ただし、詳細に分析してみると、周囲の各省が世界遺産登録に成功した時期はみな 20 世紀であるのに対し（最も早いものでは〔山東省泰山の〕1987 年）、浙江省はやっと 2010 年であり（文化遺産は更に遅く 2011 年）、浙江省の努力不足を反映しているのである（図 5 および 6 を参照）。



図 5　杭州の西湖

4)「世界文化遺産公約」によれば〔基本的には 1972 年 11 月 16 日に採択された Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage、中国語名「保護世界文化和自然遺産公約」日本語名「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」通称「世界遺産条約」を指すものと思われるが、たとえば「文化的景観」（Cultural landscape）は 1992 年 3 月 27 日改訂の「世界遺産条約履行のための作業指針」で盛り込まれ、「無形文化遺産」（Intangible Cultural Heritage）は 2003 年 10 月 17 日採択の「無形文化遺産の保護に関する条約」で定義されたものであるため、ここでは世界遺産の関連各条約を勘案し翻訳した〕、世界遺産は狭義と広義の二つの範囲が含まれる。狭義の世界遺産とは「世界文化遺産」「世界自然遺産」「世界の文化と自然遺産」「文化的景観」の四種類である。広義の世界遺産としては、形態や性質により、文化遺産、自然遺産、文化と自然の複合遺産、記憶遺産、フォークロアや無形の遺産（無形文化遺産と称す）、文化的景観の遺産を指す。



図 6　大運河の杭州部分

表 1　中国大陸の東部地域における世界遺産の数量および分布

	文化遺産		自然遺産	複合遺産	合計
	文化遺産	文化景観			
上海	0	0	0-	0	0
江蘇	3 蘇州古典園林（1997）、〔明・清王朝の皇帝墓群のうち〕明孝陵（2003）、大運河（2014）	0	0-	0	3
浙江	2 西湖（2011）、大運河（2014）	（1）西湖	1〔中国丹霞のうち〕江郎山（2010）	0	3
安徽	2 安徽南部の古村落（2000）、大運河（2014）	0	0	1 黄山（1990）	3
江西	1 廬山（1996）	（1）廬山	2 三清山（2008）、〔中国丹霞のうち〕龍虎山（2010）	0	3
福建	1 福建土楼（2008）	0	1〔中国丹霞のうち〕泰寧（2010）	1 武夷山（1999）	3
山東	2 曲阜の孔廟・孔林・孔府（1994）、大運河（2014）	0	0	1 泰山（1987）	3
合計	11	（2）	4	3	18

とはいえ、〔世界遺産登録への〕認識が深化するにつれ、浙江省は世界遺産登録申請における優位性と潜在力を大きく発揮し始めた。現在、浙江省ではすでに成功例として 2010 年の「江郎山」（自然遺産。丹霞地形〔広東省韶関市仁化県の丹霞山を典型とした、中国南部に残る赤い堆積岩が織り成す地形、英語では Danxia Landform〕の名で共同登録）、また 2011 年の「杭州西湖の文化的景観」（文化遺産。文化景観として単独での登録）と 2014 年の「中国大運河」（文化遺産。文化景観として共同登録）。申請大詰めのものとしては 2018 年の「海のシルクロード（寧波）」（図 7 および 8 を参照）



図 7　寧波市〔江北区〕の保国寺



図 8　寧波市〔鄞州区〕の天童寺

と 2019 年の「良渚遺跡」がある[5)]。

（二）共同申請が多く、地域の特色が不鮮明　しかし、我々が注意すべきは、すでに世界遺産登録が行われた〔浙江省衢州市江山市の〕「江郎山」は六省（湖南省、広東省、福建省、貴州省、江西省、浙江省）の共同での遺産登録申請であり、また「中国大運河」は八省市（浙江省、江蘇省、安徽省、河南省、山東省、河北省、天津市、北京市）の共同申請であり、「杭州西湖」は浙江省だけの単独の登録申請ではあるものの、これは現在も変わりつつある混淆した文化総合体というべきものであるうえ、しかも間もなく申請となる「海のシルクロード」（広東省、福建省、浙江省、江蘇省の四省による）もまた共同申請であるわけだが、〔「杭州西湖」は「海のシルクロード」の終点の一つともなっているため〕浙江省が既に行ったか、これから行うような世界遺産登録申請では、地域性や特色性が突出しているようなものが無いのである。

表 2　浙江省が世界遺産登録を既に行ったか、これから行うもの

年度	省内の地域名	申請の名称	申請する地域	備注
2010 年	江郎山	中国丹霞	湖南省〔邵陽市新寧県〕崀山、広東省〔韶関市仁化県〕丹霞山、福建省〔三明市〕泰寧県、貴州省〔遵義市〕赤水市、江西省〔鷹潭市貴渓市〕龍虎山、浙江省〔衢州市江山市〕江郎山	
2011 年	杭州西湖	杭州西湖	浙江省	
2014 年	江南運河 浙東運河	中国大運河	浙江省、江蘇省、安徽省、河南省、山東省、河北省、天津市、北京市	
2018 年	寧波、龍泉	海のシルクロード	広東省広州市、福建省泉州市、浙江省寧波市、江蘇省南京市	これから申請し審査をうける
2019 年	杭州	良渚遺跡	浙江省	これから申請し審査をうける

第二節　顕著な価値や特色の強調

世界遺産への申請には、必ず顕著な価値や特色が必要であり、これが活動の強調点となる。普遍的価値を突出せしめ、また国際基準に合致せしめる。というのも、世界遺産は顕著な普遍的価値を持つ必要があり、別の土地にある別の種類の一般的な遺跡とは異なるものでなければならない。また世界遺産の規定に合致し基準に合格する逸用があり、そのためには世界遺産申請活動において必ず国際基準を遵守せねばならないのである。

文化的特色を顕揚せしめ、文化的多様性を体現せしめる。というのも、世界遺産の申請の際には、対象となる遺産は明瞭で独特なる文化的な特徴や特色を持つ必要があり、一般的な遺跡とは異なるも

5)「海上絲綢之路」〔海のシルクロード〕は共同申請で（広東省、福建省、浙江省、江蘇省の四省による共同申請で、2018 年〔7 月の第 42 回〕の「世界遺産大会」〔世界遺産委員会、World Heritage Committee〕での審議を目指している）、その中では浙江省の寧波市（〔江北区に出土した宋元明期の中央政府大型倉庫「浙江寧波元代慶元路永豊庫遺跡」である〕永豊庫、〔慈溪市〕上林湖の越窯遺跡、〔江北区にある 1013 年開基の〕保国寺、〔鄞州区にある 300 年開基の〕天童寺）、また別に〔麗水市〕龍泉市の大窯遺跡が加わる予定である。また「良渚遺跡」（杭州市〔余杭区〕）はもともと 2017 年〔7 月のポーランドクラクフでの第 42 回〕世界遺産委員会で審議を行う予定であったが、日程が繰り延べになり世界遺産登録申請予定リストから移動されたものの、2016 年 7 月には最高指導者の注目もあり〔2016 年 4 月 12 日開催の全国文物工作会議のため習近平総書記が重要講話「切実加大文物保護力度 推進文物合理適度利用 努力走出一条符合国情的文物保護利用之路」を発出し、2016 年 7 月 29 日には浙江省副省長の鄭継偉も参加した良渚遺跡遺産申請活動指導グループ会議が開催され、2016 年 10 月 31 日には国家文物局が「良渚」を含む「大遺址保護“十三五”（2016 年からの第十三次五カ年計画）専項規劃」を公布したことなどを指すか）、新たにリストに名を加えられ、2019 年〔7 月の第 43 回〕の世界遺産委員会の審議に提出することが決定した。

のでなければならない。そして明らかに一般的な遺跡にくらべ価値が高くてこそ、やっと文化的多様性を表現できるのである。

物質としての遺産そのものを重視しつつ、その内包する精神を展開せしめる。というのも、物質としての文化遺産では、物質としての存在そのものと、その遺産の保護や利用を重視するわけだが、ただ文化遺産はその物質そのものだけに留まるものではない。世界遺産への申請には、物質としての存在を基礎としつつも、その内包する精神を充分に掘り起こし引き上げていかねばならない。

第三節　地域の特色を突出せしめる方法

浙江省では、世界遺産登録申請の対象を選抜する際に、浙江省の現実と密接であり顕著な地方性・希少性（唯一性）そして文化性などがあるものとし、関係の諸活動を通して十文に実行し実現するようにしている。

（一）呉や越の文化なかでも浙江の地域文化を突出せしめる　歴史上、「呉頭楚尾」〔語の出典となる王象之『輿地紀勝』巻二十六「江南西路」「風俗形勝」所引『豫章職方乗』序文によれば江蘇省域の上流また湖北省域の下流にあたる江西省域を指すが、ここでは浙江省を指すか〕という越国の文化があったればこそ、越国は春秋時代〔紀元前 770 年～紀元前 403 年〕に覇者の国の一つとなったのである。そしてそれは呉国〔現在の江蘇省を中心とする〕や楚国〔現在の湖北省を中心とする〕と文化的に交流し相互に影響を与えたため、浙江省のなかにも少なからず遺跡が残されることとなった。〔紹興市〕柯橋区〔の平水鎮や漓渚鎮の「紹興越国貴族墓群」〕の古城の周辺〔「古城」は原文ママ、次出の湖州遺跡所在地か〕や湖州西部の丘陵部〔湖州市安吉県遮鋪鎮の古城村にある「龍山越国貴族墓群」〕では越国の貴族の墓が大量に発掘されたが、即物的にはその規模が、また出土したその内容が、さらには影響による価値が、みな深く研究し世界遺産へ登録申請し遺跡保護を行っていくべきものなのであった。また呉越国は唐末〔およそ王仙芝が反乱を起こした 874 年ごろから亡国の 907 年まで〕から五代十国〔907 年～ 960 年〕の時代に存在した代表的な地方政権で、銭氏〔銭鏐・銭元瓘・銭弘佐・銭弘倧・銭弘俶の〕三世代五人の王の統治下において、梵鐘の音が殷々と響き渡る“東南の仏国”を作り上げ、版図をよく鎮めて民心を安定させたため、富裕層も庶民層もみな安住し、後に北宋〔960 年～ 1127 年〕へ版図を返上し〔978 年に〕平和的統一が果たされたこともあって、墓群や古塔そして仏寺など極めて特徴的な遺物が残されたのである。そして〔1127 年に北宋が滅亡し、みやこ開封府を放棄して臨安府へ〕宋の皇室が南渡してくると、南北の文化が集中する十字路となり、浙江省は首都圏となり、中国の封建社会が高度に発展するなかで、美しく彩られた南宋〔1127 年～ 1279 年〕の文化が花開き、たとえば臨安城〔現在の杭州市上城区周辺、南宋の首都臨安府が置かれた〕そして豊富で濃厚な史跡が残されたのであった。以上のような構想にしたがえば、我々は代表的な対象遺産を櫛出して充分に地方の文化を展示できるであろう。

（二）江南の特色を突出せしめ、また浙江省の地域の特色を突出せしめる　中国の歴史上、江南は人々のあこがれの地であり、気高い山や清らかな川が流れ、“詩や絵画のように美しい江南”と讃えられてきた。浙江省はその江南の代表的な地域なのである。水郷の古い集落、旧来からの街並みやクリーク、精巧な建築、典雅優婉なる文化。こうした水郷の特色が非の打ち所なく体現されているのである。また浙江省中央部〔である金華市東陽市〕の「婺州の民間建築」や、浙江省南部〔である麗水市慶元県や温州市泰順県など〕の「木拱廊橋」〔屋根付き橋〕は、ともに「巧奪天工」〔技工の巧みさが天然の美をしのぐほどであること〕というべき建築創造であり、江南の人々の優れた才知と巧みな構想が物質化という手段で展開されたものといえるのである。

（三）文化的な交流を突出せしめ、また浙江省の地域文化の発展を反映せしめる　有史以前の文化が

誕生し拡大していくと、たとえば〔寧波市余姚市の〕河姆渡遺跡や〔杭州市蕭山区の〕跨湖橋遺跡といった文化の影響を受け、それが〔金華市浦江県の〕上山遺跡や〔麗水市遂昌県の〕好川遺跡、また〔嘉興市南湖区の〕馬家浜遺跡、〔湖州市呉興区の〕銭山漾遺跡、〔杭州市余杭区の〕良渚遺跡の文化へ成長し、さらに太湖流域や揚子江三角州地帯が揚子江下流域に影響を与え、文明の発展を推進すると同時に、浙江省の地域文化をはぐくんでいき、歴史時代における浙江省の文化を牽引していったのである。

また磁器が誕生し主要に発展した地域としても、太古流域にあたる〔湖州市〕徳清県の殷から周〔紀元前 17 世紀頃～紀元前 771 年〕にかけての原始的な磁器、〔銭塘江最大の支流で金華市磐安県東部の大盤山を源流とする〕曹娥江の下流にあたる〔紹興市〕上虞区の後漢時代〔紀元後 23 年～ 184 年〕の成熟した磁器、そして〔寧波市〕慈溪市の唐代〔618 年～ 907 年〕から宋代〔960 年～ 1279 年〕にかけての上林湖の越窯、杭州市〔上城区の〕南宋時代〔1127 年～ 1279 年〕の国営の窯、〔麗水市〕龍泉市の宋元明の時代〔960 年～ 1644 年〕の大窯といった遺跡が存在するのである。そしてこれらの窯の産品は美名が全中国に轟き、広く国内外に販売され、〔世界遺産登録の〕「大運河」や「海のシルクロード」といった重要な文化交流ルートでの重要な運搬物となったのであった。これは浙江省の地域文化の内面からの創造、また外面への交流といった要素を十分にあらわしているのである。

そして唐宋時代〔618 年～ 1279 年〕より以来、国外との物質的交流が行われると同時に、文化や宗教の方面の交流も、連綿と明清時代〔1368 年～ 1912 年〕まで絶えなかったのである。杭州市の〔余杭区長楽鎮にあり 768 年に開基された〕径山寺、寧波市の〔鄞州区太白山麓にあり 300 年に開基されたという〕天童寺、〔台州市〕天台県の〔天台山麓にあり 598 年に開基された〕国清寺（図 9 を参照）、そして〔舟山市普陀区にある 916 年に日本僧の慧萼が開基したという不肯去観音院普済



図 9 〔台州市〕天台県の国清寺

禅寺を中心とする霊場の〕舟山群島の普陀山などでは韓国・日本・東南アジアと宗教や文化の面で一連の交流が行われた。すなわち、文化的な影響は明らかに浙江省だけに局限されるものではなく、まさに世界的文化遺産である要素を持っているのである。

（四）文化精神を突出せしめ、さらに浙江地域の文化精神そのものと文化の創造を突出せしめる　浙江省の銭塘江河口両岸に続く〔海上の長城とも呼ばれる〕「千里古海塘」（図 10 を参照）は、〔中国北方の〕万里の長城や〔北京と杭州を結ぶ〕「京杭大運河」とともに我が国の古代三大建築〔三大建築には、長城と運河に続き『史記』巻二十九「河渠書第七」にも登場する「井渠」すなわち新疆の坎児井（カナール）を数えることもある〕と並び称されている。この海塘の建設過程こそ浙江地域の文化精神が精練昇華される過程であった。勇気をもって探索し粘り強く前進する文化精神は、建設過程で充分に示されることとなった。そして世界の奇観である「銭江涌潮」〔銭塘江の大海嘯〕（図 11 を参照）への認識や観賞への利用とも相まって、この地は絶世の奇観と希少な遺産を作り上げ、まさに浙江地域における世界遺産申請の代表格となったのである。



図 10　銭塘江の古海塘



図 11　銭塘江の大海嘯

第四節　登録申請の実際にあわせた選択

世界遺産の登録申請とは、系統だった、長期的な、そして極めて困難な活動であり、積極的に行ったとして、なお願望どおりに実現しないものである。そしてそれは、ただ正確な認識、積極的な継続活動を通してのみ目標達成を実現できるのなのである。そのためには、我々は科学的な選択を積極的に推進せねばならない。

（一）地方の特色を顕彰する　研究を深め、共通認識を形成せねばならない。というのも、遺跡の保護は当然であり実施も行われているわけだが、遺産申請には調査の継続そして研究の深化による普遍的価値の顕彰が必要である。そうすればこそ国際社会が受け入れるのであり、また共通認識を醸成する必要があることは疑いも無く、それだからこそ活動の指針を規範化せねばならないのである。我々はそのために以下のように考えるのである。磁器の起源にあたることは希有な資源である。また水郷の古い集落は江南の雰囲気を体現している。そして閩浙〔福建省と浙江省、ここではその境界地域にあたる浙江省温州市泰順県など〕の「木拱廊橋」〔屋根付き橋〕は「巧奪天工」〔技工の巧みさが天然の美をしのぐほどであること〕というべき創造物である。こうしたものはみな地方の特徴を完全に体現しているのである。

（二）活動の基礎固めをする　保護活動を強化し、破壊活動を制止せねばならない。というのも、世界遺産申請とは長期的で変化するものである。申請の前後には、持続的で有効な遺産対象そして生存環境の保護を行わねばならない。それだからこそ、たとえば〔杭州市余杭区の〕良渚遺跡の遺産申請では、関係する地域の経済や社会の発展計画を全面的に企画規制し、適切に保護し有効に利用し、そして重要な課題また着実な活動へと成長せしめたのである。

（三）欠点を弥縫する　「銭江潮」〔銭塘江の大海嘯〕と「古海塘」は、千古の奇観と傑出した文化的想像の代表格である。歴史上、この二者は互いに拠って成立したようなもので、〔被害をもたらす海嘯が発生するからこそ知識を駆使して美麗な建築を作り上げるような〕禍と福が混交しながら変化したのであり、銭塘江の河口における自然環境の変遷と文化の進歩を見事に証明しているのである。そしてその現実のなか、自然遺産と文化遺産が融合共生し、互いに照らしあうような希有の遺産となり、日ましに注目をあつめることにもなったのである。その特殊な自然の現象、また重要な水利事業、さらにはその遺跡が立地する地域の内包する豊富で奥深く特質の鮮明な文化を鑑みれば、国内外でさらに加速する人類の協同遺産への保護の重視という環境背景のもとで、このように自然や文化そして内包される価値が高度に共存している希有な遺産が世界遺産申請のホットポイントになるのは当然のことなのであった。

第五節　突破方法の速やかな探求

（一）「搭便車」〔ちょうど良い車に一緒に乗せていく〕“捆綁”〔抱き合わせ〕による遺産申請　浙江省の地域文化の特色あふれる体現とは、青磁文化とその遺物となるが、現状では単独の申請が困難である。そこでまずは「海のシルクロード」が 2018 年に申請される予定であるため、そこに一部の窯の遺跡（たとえば寧波市慈溪市の上林湖の窯跡など）を“捆綁”〔抱き合わせ〕し、ちょうど良くきた車に一緒に乗せてしまい、まず遺産申請を目指すのである。

（二）「辟蹊径」〔ショートカットを作成する〕　二つの遺産の結合申請　浙江省にはなお〔自然と文化の〕二つの項目をあわせ持つ遺産は存在しない。しかし「銭江潮」〔銭塘江の大海嘯〕と「古海塘」はまさに完全なる両項目結合の遺産であるといえよう。二者が互いに生かしあい、それぞれが互いを顕彰している。どちらかを捨てるべきではなく、また一方が欠けるべきでもない。しかも単一の項目での申請は現在のところ難度が高いため、両者が協同し力をあわせることにより、さらに含意を豊富

にし、価値を突出することができ、それにより勝算を増大させることができるのである。

（三）「求支持」〔支持を求める〕　政府の格別な支持の獲得　良渚文化〔杭州市余杭区良渚鎮に出土した紀元前 3500 年頃から紀元前 2200 年頃にかけての新石器時代後半の文化〕は浙江省における有史以前の文化の代表格である。そして良渚遺跡の世界遺産申請は、遺跡が〔1936 年 12 月に浙江省立西湖博物館の絵図員であった施昕更により〕発見されてから 80 年を経た今日、〔2016 年 7 月 29 日には浙江省副省長の鄭継偉も参加した良渚遺跡遺産申請活動指導グループ会議が開催されるなど〕上層部の遺産申請に対する重視と支持を得て、2019 年に世界遺産申請を行う準備が行われることとなった。同様に、その他の浙江省の特色ある文化的遺産である銭塘江の大海嘯や古海塘といったものについても、たゆまず努力をし、さらに強い支持を得て、すみやかな願望達成を目指さねばならない。

第六節　事例分析――銭塘江の大海嘯と古海塘の世界遺産登録申請

以上に確認してきた研究と活動の構想を踏まえつつ、銭塘江の古海塘に対する世界遺産申請推進過程から実践状況を確認していこう[6)]。

（一）背景の概要　銭塘江は杭州湾に出て東シナ海へと注ぐ。このラッパ型の河口という独特な地形が、世界に名を知られる「銭江涌潮」〔銭塘江の大海嘯〕を引き起こすのである。銭塘江の大海嘯は気勢雄大で、海嘯という奇観はもとより、その海嘯を詠む詩文、観賞する習俗、制御する技術など、多くの歴史遺産を生み出し、一貫して海嘯研究の注目する焦点となってきたのである。

さらに重要なのは、塩水の侵入を防ぐために、千年百年の昔より、銭塘江の河口両岸には住民により、これもまた世界の奇観と讃えられる古海塘が修築されてきたのである。古海塘の建設には悠久なる歴史があり、千里にもわたって連綿と分布し、建築技術も複雑で、関係する遺跡も豊富であり、まさに万里の長城や大運河とともに三大建築事業の一つ〔中国語原文は「三代水利工程」とあるが、著者は他の個所で「三大建築工程」と表現するため後者に従った。なお中国三大水利事業としては大運河、広西桂林市興安県の霊渠、四川省成都市都江堰市の都江堰を数えることが多い〕として名が知られ、「海上の長城」と称えられており、歴史時代中国の偉大なる建築の、また科学技術そして文化における遺産の一つとなっているのである。

（二）現状の評価　古海塘の遺跡は、銭塘江の河口両岸に千里にわたって連綿と分布している。北岸の海塘は「杭嘉湖平原」〔杭州市・嘉興市・湖州市の中心部に広がる大平原〕の南の縁にあたり、また「浙西海塘」〔銭塘江はまたを浙江とも言い、その西岸を浙西と称す〕と呼ばれる。また南岸の海塘は「寧紹平原」〔寧波市・紹興市の中心部に続く小平原〕の北側にあたり、「蕭紹海塘」〔紹興市蕭山区臨浦鎮から紹興市上虞区蒿壩鎮まで〕、「百瀝海塘」〔紹興市上虞区の百官鎮から瀝海鎮まで〕、「浙

6) 万里の長城や大運河は、どちらも 1987 年〔長城は 1987 年 12 月にパリで開催された第 11 回世界委遺産委員会採択〕、2014 年〔運河は 2014 年 6 月にドーハで開催された第 38 回世界遺産委員会採択〕に世界文化遺産に列している。浙江省では 7 ヶ所が世界遺産登録申請予定リストに載るものの、なお銭塘江の古海塘は掲載されていない。「保護世界文化和自然遺産公約」〔原文ママ、その場合は 1972 年 11 月 16 日に採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」となるが、後記の内容からすれば「世界遺産条約履行のための作業指針」（Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention）第二章「世界遺産一覧表」（The World Heritage List）第四節「顕著な普遍的価値の評価基準」（Criteria for the assessment of Outstanding Universal Value）であろう〕によれば、「世界遺産一覧表」の文化遺産の項目に採択されるためには、六項目のうち一項目あるいは数項目に符合する必要がある（なお「世界遺産一覧表」の自然遺産の項目に採択されるためには四項目のうち一項目あるいは数項目に符合する必要がある）。そして批准されれば、やっと「世界遺産」の一覧表に列することができるのである。銭塘江の古海塘は最低限でも第四項〔すなわち「歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である」というもの〕に符合しており、また銭塘江の大海嘯も二項以上に符合している。2015 年の全国人民代表大会と中国人民政治協商会議全国委員会の両会〔全人代と全国政協は同時開催されて二つの会議すなわち両会と呼称される〕では人民代表の提案をうけて銭塘江の古海塘の世界遺産登録申請活動の推進を開始することとなった〔2015 年 3 月 13 日に杭州市政協主席の葉明が第十二回全国政協第三次会議で提出した「銭塘江古海塘（包括銭江潮）申報世界遺産」提案を指すものか〕。

東海塘」〔瀝海鎮夏蓋山から寧波市鎮海区まで〕などを包含する。これらの遺跡はすでに千年の時を経ていながらも、なお凡そ連続的に接合し、主要な部分は完全に保存されているため、塘じしんの構造および連続する組成は明晰に分析できる。しかしその存在そのものが海水という衝撃を多分に受け、また研究は総合するには不足しており、系統的な保護に欠け、利用にも不合理な部分があるといった諸問題があり、世界遺産申請や保護が喫緊の課題となっている。

（三）内容事物への認識　対象となる遺産の科学的で全面的な認識とは、文化遺産の保護や利用の基礎である。そして全面的な認識があってこそ、やっと内包される価値の科学的な概括や、顕著な普遍的遺産価値の精錬昇華が可能となり、そして遺産保護のための基礎的な根拠を提供できるのである。

古海塘は物質的な存在であり、また具体的な遺産である。そしてその物質としての文化遺産が内包体現するものは極めて豊富であり、海塘じしんのほか、海塘に関連する水利施設や文物から名勝古蹟などを包含するのである。古海塘と関係する無形文化遺産の内包するものも同様に豊富であり、故事や伝説、音楽や舞踏、祭祀や崇拝、関係人物の記憶、禁忌となる習俗、生産のための習俗、地方の物産などを包含する。しかも伝説や習俗といったものは純粋に無形の文化として表現されるもので、祭祀や崇拝もまた物質の本体に寄託され、豊富で多彩な海塘の無形文化の空気から醸成されたものなのである。

古海塘から付随的に生じた文化の内包するものもまた多様である。銭塘江の古海塘の複雑な成り立ちを分析すると、主には地理的な要因や科学技術の進歩そして文化の空気や影響といったものとなる。ここからは海塘が純粋なる工業的事業などでは決して無く、地域の文化発展のなか生まれた総合的産物であることがわかるのである。海塘の体系や海塘の建設過程には、完備された海塘の科学技術体系が凝集しているのである。海塘の使用過程では、管理においても体系が形成され、制度（工事の定式、事業管理、賞罰制度など）や機構（地方の官庁や専門の機構の設置など）、人員（専門に管理する官員や代理の人員、堤防の防衛や修築を担った軍隊の「営」や「汛」といった組織）、経費（政府による調達が主であるが、ほかに商品税や義捐金、罰金や没収などがあった）等を包括するものとなった。歴代の海塘と関係する地理書や論著、提言や上奏といったものも重要な研究材料となる。また銭塘江や古海塘と大きく関連する“海塘文学”もまた古海塘の文化と切っても切れない関係にあるのである。

（四）価値評価　海塘の文化遺産としての価値が体現するものは、物質としての文化遺産の価値と非物質〔無形〕の文化遺産の価値という両面がある。また文化遺産が付随的に生みだした価値が体現するものは、科学技術遺産としての価値、なお生きていて観察できる遺産としての価値、管理文化に対する価値、伝存した文献史料に対する価値、そして文学遺産に対する価値といったものがある。銭塘江や古海塘は利用価値のある重要な資源なのであり、総合や管理の上での利用という価値（軍事管理、行政管理、事業管理など）、文化や保護の伝承という価値（物質文化遺産また無形文化遺産として）、旅行や開発での利用という価値（旅行や開発での利用そして文化や保護の伝承が行われる重要な対象として）といった諸方面の価値を包含しているのである。

（五）優位な点の分析　古海塘は文物の基本価値を有している。まず物質的存在として実体性があり完備もしている。また顕著な歴史的、科学的、芸術的そして社会上の価値を有している。そして古海塘と銭塘江の大海嘯は連関して生じ、相互に影響を与えている。海嘯とは自然の現象であり、塘とは人工の産物である。そのため自然遺産と文化遺産の両面の価値を持ち、保護し利用する価値も顕著となり、遺産としての総合的価値を持つにいたったのである。

世界遺産は人類の共有する価値のある特殊な遺産であり、「顕著な普遍的価値」を持つ必要がある。

この世界遺産登録申請の価値条件に照らし合わせれば、銭塘江と古海塘は条件を十分に備えているといえ、遺産申請における所与の条件という点で大いに優位にあるといえよう。

自然における条件について。銭塘江の大海嘯は世界三大海嘯の一つといわれ〔中国ではおもに南アメリカ・ブラジルのアマゾン川河口のポロロッカ、南アジア・バングラディシュのガンジス川河口、中国の銭塘江を三大海嘯とする。ほか南アジア・パキスタンのインダス川河口、イギリスのセヴァーン川河口などでも発生するという。なお以前は北アメリカ・メキシコのコロラド川河口が著名であったが、昨今は灌漑の進展などで発生しないという〕、文化の情緒としても独特である。銭塘江は南アメリカのアマゾン川、また南アジアのガンジス川とともに「世界三大海嘯河流」と称せられているのだが、銭塘江は文化の中心に位置しており、海嘯の持つ文化の内包は他の地域と比較にならない。

人工物における条件について。銭塘江の古海塘は歴史時代中国の三大建築事業の一つで、価値や意義は最も大きい。古海塘の歴史の長さ、建築された成果、効能の体現するものなど、代表的な三大建設事業のなかでも最も顕著なものである。また万里の長城が陸地（すなわち山）を代表し、大運河が平原（すなわち河川）を代表するなかで、海塘は海洋を代表するものと言うことができ、これも大きな特色である。

融合という点について。銭塘江と古海塘は、自然と人工物が結合したものであり、普遍的価値は極めて顕著である。現在では文物そのものの保護と同時に、日増しに関係する環境の保護が叫ばれるわけであるが、この海塘という特殊で巨大なライン状の遺産では、海塘と銭塘江の大海嘯が相互に影響を与えており、海嘯という自然と海塘という人工物とが自然と文化の複合した遺産価値を生み出しているのである。それだからこそ海塘は保護し利用する価値が突出しているわけであり、また総合的社会価値が高いといえるのである。そしてそこには三つの特色を数えることができる。ひとつには自然と文化の結節点であり、千古の奇観である銭塘江の大海嘯と海上の長城たる古海塘が互いを照らしあい、双璧として並び立っていることである〔中国語原文は「双壁」とするが、ここでは『魏書』巻四十・列伝第二十八・陸俟附曾孫暐伝を出典とする「双璧」が適当か〕。またふたつには、物質的な文物と無形の遺産とが結合し、深い文化や歴史の蓄積が存在することである。そして第三には、浙江の地域的特徴を体現し、浙江の地域文化と文化精神の代表となっていることである。

銭塘江の海塘と万里の長城そして京杭大運河は中国の歴史時代の三大建築事業と並び称されている。比較として述べれば、銭塘江の海塘の建設過程では、人々は地形・地勢・地質、そして〔月の満ち欠けなど〕天文・潮の満ち引き・災害、さらには使用する材料や技術といった知識を不断に深め、海塘の構造を不断に完備させ、技術を不断に高めていった。その建設はきわめて困難であり、科学技術はさらに高まった。これは傑出した建築遺産であり、後世への影響は大きなものであった。銭塘江の古海塘は少なくとも半分以上の世界遺産登録基準と符合しており、遺産登録の条件をなお充足しているといえよう[7)]。

（六）登録作業過程への提案　中国では「予備リスト」〔ユネスコの発表している世界遺産候補暫定リスト、World Heritage Tentative Lists を指すものか〕に登録されている遺産や申請登録も大詰めの遺産は少なくなく、遺産申請の難度はやや高い。浙江省の母なる河である銭塘江はまたの名を浙江ともいい、浙江省の名はこの河名より取られている。河口の両岸は浙江省の経済や文化が繁栄する地にあたり、「足を挙げれば軽重が定まる」〔『後漢書』列伝第十三・竇融伝にある、河西の竇融が洛陽の光武帝と天水の隗囂との間にあってキャスティングボートを握った故事に基づく〕ような地域であ

7) 黄斌「銭塘江古海塘遺産認知与保護研究」（〔浙江省文物考古研究所編〕『浙江省文物考古研究所学刊』第 10 輯、北京・文物出版社、2015 年〔7 月〕）。

ると言えよう。

古海塘を浙江地域の傑出した代表とすることも過当とはいえまい。銭塘江の大海嘯と古海塘とは、受け継いだ文化の蓄積が最も厚い。それだからこそ、政策により大海嘯と古海塘を殊遇し協力援助して浙江の代表とし、「文化と自然の複合遺産」という角度から活動を続けることにも十分な理由があるのである。

第三章　管理の対策

第一節　保護活動こそ遺産登録申請活動の基礎

遺産の保護が良好であることは登録申請の前提であり利用の基礎ともなる。それだからこそ全面的かつ積極的な保護が必要となるのである。

(一)全面的な保護　第一には、保護対象の境界領域についてである。世界遺産保護における真実性〔ユネスコの述べる真正性 Authenticity か〕、完製性〔ユネスコの述べる完全性 Integrity か〕、延続性〔連続性 Continuity か〕という原則を遵守し、遺産の限度（遺産の境界）、遺産の形態（遺産の観念）を保護せねばならない。第二には、完全なる遺産内容の保護である。物質としての文化遺産（遺産の核心的構成）、無形文化遺産（遺産内容への解釈材料）そして景観環境要素（遺産の環境や依拠）を保護せねばならない。第三には、保護技術の改善である。遺産保護には構想・方法・手段・材料を含む技術的支援が必要である。なにより形ある物質文化遺産に対しては、なお文物修復技術や方法の総合と普及を重視せねばならない。

(二) 動態的な保護　第一には、保護と発展という矛盾を正確に処理せねばならないことである。日進月歩の都市の発展は遺産にとって潜在的な脅威となってしまう。しかも遺産の内部では人々の活動が不断に激化し、遺産に対しても同様に日増しに増大する影響を与えていく。そのため、遺産環境の維持は保護の重要課題となるのである。第二には、監視測定と管理の強化である。なにより日常的な監視測定と管理を強化し、積極的に問題を発見し、また問題を解決しなければならない。ついで監視測定と管理を長期的に堅持し、不断に機能を改善して、不断に監視測定の有効範囲を拡大し、不断に監視測定の指標内容を深化させていくべきである。というのも 2016 年 9 月 14 日、まさに中国伝統の中秋節のころおい〔中秋節は太陰暦 8 月 15 日に祝われるもので中華人民共和国では 2008 年度より休日となった。2016 年度は太陽暦 9 月 15 日にあたる〕、台風 14 号「ムーランティ」〔2016 年 9 月 10 日にフィリピン東海上で発生し中国を襲った Typhoon Meranti〕が浙江省南部の〔温州市〕泰順県に影響を与え、県内河川の水位が急速に上昇し、遺産申請リスト掲載の三カ所の全国重点文物保護単位の文物である泰順の「廊橋」〔屋根付き橋〕〔泰順県の廊橋は 2006 年 5 月 25 日議決の第六次全国重点文物保護単位に登録された〕の薛宅橋〔泰順県の三魁鎮薛宅村〕、文重橋〔筱村鎮東洋村〕、文興橋〔筱村鎮坑辺村〕が、またたく間に洪水により破壊されてしまったのである。各級の文物主管部門はただちに緊急措置をとり、また即座に復原に同意する命令を発したが、やはり閩浙〔浙すなわち浙江省では温州市泰順県、麗水市の景寧畲族自治県と慶元県、また閩すなわち福建省では寧徳市の寿寧県と周寧県および屏南県、南平市の政和県が世界遺産申請に共同参加している〕の「木拱廊橋」〔屋根付き橋〕の世界遺産登録申請活動に影響を与えてしまっている。ここからみれば、やはり監視測定による早期警戒や複合的管理措置は、世界遺産登録申請や管理過程において強化せねばならないのである。

第二節　遺産登録過程による保護研究や管理の促進

（一）申請過程では研究の持続的深化と保護活動の有効な推進を促進すべきである　世界遺産登録申請の難度はより高く、管理要求はより厳しくなりつつあり、我々は認識と研究を強化し、全面的に合理的かつ充分に深く関係資源を評価せねばならない（たとえば有史誕生以前の文化の代表である良渚遺跡。世界の磁器の起源と伝承発展を行った代表である徳清県の原始的な磁器や上虞県の成熟した磁器、慈溪県上林湖の越窯、龍泉市の大窯の遺跡など。江南の水郷集落の代表である南潯鎮、新市鎮、烏鎮、西塘鎮。屋根付き橋の代表である泰順県、慶元県、景寧県など。類い稀な奇観である銭塘江の大海嘯と海上の長城である古海塘など）。価値評価の方面では、地域の特色を強化し、稀有な対象を突出せしめ、普遍的価値などの研究を精錬し、近年来の保護管理と今後の利用見通しに対して客観的で持続的な評価を行い、リストの内容について合理的に選択し定期的な更新を行い、内外の動因や現実的な条件そして今後の展望といった方面から登録申請の可能性を評価し、また政策・理念・技術・方法といった方面から着手して保護管理研究を適切に強化し、遺産の保護における影響を引き上げていかねばならない。

（二）保護管理の関係課題研究をさらに向上するべきである　第一に、遺産管理の理論研究は複合的な政策を改善し、機能や機構を健全化し、理論探索を強化せねばならない。第二に、遺産本体の保護や修復について日常的な保守点検を強化し、修復保護技術を改良せねばならない。第三に、遺産環境の景観制御において、計画や管理という点で建設規制を強化せねばならない。

（三）動態調整では登録構想の調整と管理措置の強化とを複合し進行するべきである　遺産価値と登録作業の可能性を勘案し、価値の最も突出したものと登録作業の可能性が最も大きいものについて、優先して世界遺産登録申請および登録作業プロセスに列さねばならない。そのためには我々の総合的な研究判断を要するうえ、我々の管理措置強化の実行が求められる。そして条件に符合する対象遺産の機会を逸しないようにするべきなのである。

第三節　管理の改善による保護や利用の向上

すでに登録されている世界遺産の登録や管理は、今後の登録申請や管理に有益な経験や模範を提供するだろう。

（一）研究評価には系統性と全面性を重視する　遺産の影響評価における複雑な内容を鑑みれば、遺産保護を専門とするような関係研究機関の広範な参加により、影響評価の研究につき体系を改良し内容を充実させねばならないだろう。遺産の持つ多様な特性に関しては、学科や業種の垣根を超えた研究も当然に必要で、全面的に問題の根底を探求し、解決の道を模索してこそ、やっと遺跡の全面的保護を確かに促進することができるのである。

（二）社会参加には全住民による動態的参加を重視する　世界遺産保護の理念にはコミュニティ意識の涵養がある。世界遺産は人類共同の財産であり、全面的な社会性があるのである。だからこそ、社会各界そして各階層の全面的な参加こそが世界遺産の持つ全住民による社会性ある存在という点を大きく引き上げることができるのである。遺産が大衆へ解放されれば社会発展の深い影響を受けることになる。こうして、遺産の各種価値と影響評価では、本体の保護環境へ大きな影響や変化が発生するうえ、科学的そして合理的に地域の科学発展へ貢献するのは当然のこと、日々に変化する社会環境変化や社会進歩についても、我々の保護する世界遺産に対して時々刻々と動態性が求められるのである。

豊富な文化遺産の資源となる対象遺物には保護が必要であり、さらに管理レベルを引き上げねばならない。世界文化遺産への登録申請とは、保護や利用の重要な手段を促進することである。そしてま

た登録申請は研究の深化、価値の掘り下げ、特色の顕著化、さらには新たなる方法そして奇抜な手段の創造が求められるのである。

世界文化遺産への登録申請とは、目的ではなく過程である。全住民による保護活動、また全面的な管理こそが遺産申請の本質なのである。

参考文献

聯合国教育科学和文化組織保護世界文化和自然遺産的政府間委員会『実施保護世界文化与自然遺産公約的操作指南』（2013 年、中国語版）〔国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界の文化遺産及び自然遺産の保護のための政府間委員会（世界遺産委員会）「世界遺産条約履行のための作業指針」（Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention）〕

浙江省世界文化遗产资源研究与申报管理

黄　　斌

内容摘要　浙江省地处中国东南沿海，向为富庶之地，素称文物之邦。因其文化史迹丰富，存量巨大、种类丰富且特色鲜明，世界遗产申报潜力较大。又因世界遗产申报难度越来越大、管理要求越来越高，使得我们必须加强认识与研究，全面合理、充分深入地评估相关资源与条件，尤其是在价值评估方面，更应强化地域特色、突出稀有对象、提炼普遍价值，对现实的保护管理与后续的利用前景进行客观的持续性评估，合理选择、定期更新相关的名录对象，从内外动因、现实条件、前景展望等方面评估申报可能，并切实加强保护管理研究，保护利用好珍贵的文化遗产。

キーワード　世界遗产资源　特色研究　申报　管理

一、资源潜力

1.1文物资源丰富

浙江省地处中国东南沿海，向为富庶之地，素称文物之邦，深厚的历史积淀和丰富的文化遗存，为文化遗产的保护利用尤其是世界文化遗产的申报管理提供了良好的工作基础。

（1）文物存量巨大。在历时 5 年（2007-2012）的全国第三次文物普查中，我省调查总数 13 万处（正式调查 75286 处，占全国 9.29%）、登录总数 73943 处（占全国 9.64%）及新发现总数 61728 处（占全国 11.52%），均居全国首位。（注 1）针对文物资源调查研究与储备，我省认识较为深刻，意识较为超前，由此，巨量的文物资源储备也创造了提升工作的潜力。

（2）文物种类丰富。作为文物资源主体的不可移动文物，包含地下类的遗址、墓葬和地面类的古建筑、石窟寺石刻、近现代史迹及代表性建筑、其他等六大类。我省 12000 多处重要文物对象（指各级政府公布且作重点保护的文物保护单位和文物保护点）中，以上种类均得以涵盖，且集群性特点较为突出。我省也是拥有全国最多历史文化名城名镇名村的省区，名城名镇名村的组合层次与分布展现同样具有明显的系列化特点。在对文物资源的保护利用过程中，创新性特点同样突出。

1.2地域特色明显

浙江地域面积狭小，但地域特色及文化特质却富有特色，这在文化遗产对象中表现突出。

（1）地方历史承载。浙江承载着厚重的历史变迁。春秋争霸时期，浙为越地，越国勾践卧薪尝胆，终成霸业（为春秋五霸之一）。五代十国时期，吴越王保境安民，物阜民丰，安定繁荣，为东南佛国。宋室南迁，成京畿之地，经济社会繁荣益嘉，攀上中国封建社会高峰。明清时期，经济发展，为财赋重地，

※ 浙江省文物考古研究所

注 1：引用《浙江省第三次全国文物普查工作报告》数据。

文化繁荣，成东南渊薮。厚重的历史正是通过文化遗产来承载与显现。

（2）地方文化展现。浙江是中华文明发祥地之一，史前文化发达。钱塘江两岸的河姆渡、马家浜、和良渚文化（照片 1）等在此发源、兴盛，上山、跨湖桥、钱山漾、好川文化等散布、传承，使得浙江的史前文明在全国占到重要地位。中国号称瓷国，而浙江却是瓷器的故乡。作为瓷器起源地、发展地，德清商周原始瓷、上虞东汉成熟瓷器、慈溪唐代上林湖越窑（照片 2）、杭州南宋官窑、龙泉明代大窑（照片 3）等，传承有序，充分证明浙江瓷器在中国和世界的地位。浙江八山一水两分田，复杂的地形与不同的族群，造就丰富多彩的族群聚居模式。平原水乡，有南浔、新市、乌镇、西塘等著名古镇，山间盆地，有浦江郑义门、富阳龙门镇、永嘉楠溪江、诸葛八卦村等村居聚落，水乡古镇、江南民居，在浙江地域得到全面展现与体现。悠久的历史文化，精明的创新意识，使得浙江在建筑技艺方面展示出突出的才能与创造，东阳木雕成就婺州建筑，木拱廊桥（照片 4）引起申遗热潮，巧夺天工，势所必然。更为重要的是，丰厚的人文积淀结合顽强的拼搏精神，创造出钱塘江河口延绵千里的雄伟古海塘，形成巍巍海上长城，体现出强烈的人文精神与创造才能。文化遗产保留的是物质，传承的却是文化。

1.3申报潜力巨大

在文化遗产保护日益得到重视的今天，作为中华文明重要发祥地之一以及唐宋以来东南人文渊薮之地，浙江数量巨大、种类丰富且特色明显的文化史迹，造就了申报世界遗产的较大潜力。（注 2）

（1）符合申报潮流。申报世界文化遗产是保护文化多样性的生动体现，也是国内外文化遗产保护的潮流追求。当今中国，由于各级政府与部门的重视引导，加上公民热情参与的积极推动，申遗俨然成了时代热点和工作焦点。

（2）满足申报条件。我们知道，世界遗产是指被联合国教科文组织和世界遗产委员会确认的人类罕见的、目前无法替代的财富，是全人类公认的具有突出意义和普遍价值的文物古迹及自然景观。因其涵盖复杂，又有狭义和广义之说。本文探讨狭义的世界遗产，即“世界文化遗产”、“世界自然遗产”、“世界文化与自然遗产”和“文化景观”四类。（注 3）

申遗要成功，必须符合世界遗产的入选标准，即要有“突出普遍价值的体现与肯定”，而强烈的意愿与有效的推动，同样缺之不可。而这些要素，我们并不缺乏且在不断充实。

二、申报研究

2.1世界遗产申报及存在问题

（1）已有数量偏少，申报进程较慢。由于认识的原因，本省的世界遗产保护管理工作起步迟滞，成绩无多。截止 2016 年，全国各省区市入列世界遗产名录项目已达 50 处，其中，文化遗产 35 处（含文化景观），自然遗产 11 处，双重遗产 4 处。

与本省毗邻的省份相比，除上海（直辖市，0 处）外，北面的江苏（3 处）、山东（3 处），西边的安徽（3 处）、江西（3 处），南边的福建（3 处）与本省同为拥有 3 处世界遗产，但仔细分析，就可发现各省申报成功的时间均在上世纪达成（最早为 1987 年），而我省则在 2010 年（文化遗产更迟在 2011 年），（照片 5，6）明显反映出我省的不足。

注 2：据 2012 年国家文物局核定的中国文化遗产申遗预备名单，45 处对象中拟由浙江单独申报或由浙江与相关省份联合申报的对象有 7 处，数量位列各省市区首位。

注 3：据《世界文化遗产公约》，世界遗产含狭义、广义两种范畴。狭义的世界遗产包括“世界文化遗产”、“世界自然遗产”、“世界文化与自然遗产”和“文化景观”四类。广义的世界遗产，则根据形态和性质，分为文化遗产、自然遗产、文化和自然双重遗产、记忆遗产、人类口述和非物质遗产（简称非物质文化遗产）、文化景观遗产。

表 1：中国大陆东部地区世界遗产数量及分布

	文化遗产		自然遗产	文化自然双遗产	合计
	文化遗产	文化景观			
上海	0	0	0–	0	0
江苏	3 苏州园林（1997），明孝陵（2003），大运河（2014）	0	0–	0	3
浙江	2 西湖（2011），大运河（2014）	（1）西湖	1 江郎山（2010）	0	3
安徽	2 皖南古村落（2000），大运河（2014）	0	0	1 黄山（1990）	3
江西	1 庐山（1996）	（1）庐山	2 三清山（2008），龙虎山（2010）	0	3
福建	1 土楼（2008）	0	1 泰宁（2010）	1 武夷山（1999）	3
山东	2 曲阜三孔（1994），大运河（2014）	0	0	1 泰山（1987）	3
合计	11	（2）	4	3	18

随着认识的深化，我省申报世界遗产的相关优势与潜力正逐步发挥并得以显现。目前，本省已申报成功的世界遗产有：2010 年的“江郎山”（自然遗产：丹霞地貌，联合申报）、2011 年的“杭州西湖文化景观”（文化遗产：文化景观，单独申报）和 2014 年的“中国大运河”（文化遗产：文化景观，联合申报）。在近期冲刺申报的则有：2018 年的“海上丝绸之路（宁波）”（照片 7，8）和 2019 年的“良渚遗址”。（注 4）

（2）联合申报居多，地域特色不彰。但是，我们应该看到，已申遗项目，江郎山是 6 省（湖南、广东、福建、贵州、江西、浙江）联合申遗项目，中国大运河是 8 省（浙江、江苏、安徽、河南、山东、河北、天津、北京）联合申遗项目，杭州西湖虽属本省单独申遗项目，却是混杂的动态的文化综合体，即将申遗的海上丝绸之路（广东、福建、浙江、江苏 4 省）也是联合申遗，因此，本省已（即将）申遗项目未能很好地突出地域性和特色性。

表 2：我省已（即将）申遗项目分析

年份	省内	项目名称	地域组成	备注
2010 年	江郎山	中国丹霞	湖南崀山、广东丹霞山、福建泰宁、贵州赤水、江西龙虎山、浙江江郎山	
2011 年	杭州西湖	杭州西湖	浙江	
2014 年	江南运河 浙东运河	中国大運河	浙江，江苏，安徽，河南，山东，河北，天津，北京	
2018 年	宁波、龙泉	海上丝绸之路	广东广州、福建泉州、浙江宁波、江苏南京	拟提交审定
2019 年	杭州	良渚遗址	浙江	拟提交审定

注 4：“海上丝绸之路”为联合申遗项目（广东、福建、浙江、江苏四省联合申报，拟 2018 年提交世界遗产大会审议），其中我省为宁波（永丰库、上林湖越窑遗址、保国寺、天童寺），另有龙泉大窑遗址也拟列入。“良渚遗址”（杭州）原拟 2017 年提交世界遗产大会讨论表决，因故推迟并从世界文化遗产预备名单中移除，2016 年 7 月，因最高领导人关注，重新列入，且确定于 2019 年提交世界遗产大会审议。

2.2突出价值特色的导向

申报世界遗产，必须突出价值特色，以此作为工作导向。

突出普遍价值，符合国际准则。世界遗产必须具有突出普遍的价值，而非某地某类别的一般遗产对象，必须符合世界遗产规定的入选标准，这使得遗产申报工作必须遵守国际规范。

彰显文化特色，体现文化多样。申报世界遗产，遗产对象必须彰显特殊的文化特征或特色，区别于一般遗产，价值需明显高于一般遗产，才能充分体现及展示文化的多样性表现。

注重物质遗产，展现精神内涵。物质文化遗产注重物质的存在与保护利用，但文化遗产并不局限于物质的内涵，世界遗产是综合的物质精神遗产共同体，因此，申报世界遗产应以物质存在为基础，充分挖掘和提升其精神内涵。

2.3凸显地域特色的做法

我省甄选世界遗产申报对象，应结合本省实际，突出地方性、稀缺性（唯一性）和文化性等，在相关工作中充分落实、体现。

（1）突出吴越文化，最能突显浙江地域文化。历史上，吴头楚尾的越国文化，使得越国成为春秋一霸，而与吴国、楚国文化的影响交流在浙江留存不少的遗迹，在绍兴古城周边以及湖州西部山区，有大量越国贵族墓，外在规制、内涵出土及影响价值均值得深入研究与申遗保护。吴越国是唐末五代十国颇具代表性的地方政权，在钱氏三代五王的治理下，梵音缭绕的东南佛国奉行保境安民政策，富庶安定，后纳土归宋，和平统一，留下的墓葬古塔佛寺等极具特色。宋室南渡以后，南北文化交汇集中，浙江地域成为京畿之地，封建社会高度发展，留下华章异彩的南宋文化，比如临安城及其丰厚史迹。循着以上思路与线索，我们可以梳理出代表性遗产对象，充分展示地方文化。

（2）突出江南特色，也就突出了浙江地域特色。中国历史上，江南是人们向往之地，秀山丽水，诗画江南，浙江是江南代表性区域。水乡古镇，古巷小河，精美建筑，婉约人文，水乡特色得以完美体现。浙中的婺州建筑及浙南的木拱廊桥成为巧夺天工的建筑创造，将江南人的灵秀与巧思通过物化的形式充分予以展现。

（3）突出文化交流，也能反映浙江地域文化的发展脉络。史前文明的产生与扩张，如河姆渡、跨湖桥等文化的影响，延至上山、好川等，马家浜、钱山漾、良渚等文化，交流影响及于太湖流域、长三角乃至长江下游地区，推动文明发展的同时，培育发展着浙江地域文化，对历史时期本地的发展起到文化的牵引作用。作为瓷器的发源地和主要发展地，太湖流域的德清商周原始瓷、曹娥江下游的上虞东汉成熟瓷器，以及慈溪上林湖唐宋越窑，杭州南宋官窑，龙泉宋元明时期的大窑等，这些瓷窑产品，美誉全中国，行销海内外，成为大运河、海上丝绸之路等重要文化交流线路的重要物质对象载体，充分展示着浙江地域文化的内生创造与外向交流。唐宋以来，在与海外物产交流的同时，文化宗教等方面的交流更是由唐宋而至明清延绵不绝，杭州径山寺、宁波天童寺、天台国清寺（照片 9）及舟山普陀山等分别串起与韩日、东南亚的宗教与文化交流，文化影响显然不止局限于本地，应是世界性的文化遗产内涵。

（4）突出人文精神，更能凸显浙江地域的文化精神与人文创造。地处我省钱塘江河口两岸的千里古海塘（照片 10）与万里长城、京杭大运河并称我国古代三大建筑工程，海塘建设的过程就是浙江地域人文精神提炼升华的过程，勇于探索、拼搏奋进在海塘建设过程中充分展现，而结合对天下奇观钱江涌潮（照片 11）的认识、观赏与利用，更是创造出旷世奇观与罕见遗产，完全能作为浙江地域的代表去申报世界遗产。

2.4符合申报实际的取舍

申报世界遗产是一项系统的、长期的、艰巨的工作，积极付出，未必得偿所愿。但只要有正确的认识，积极开展行动，就有可能达成目标。为此，我们应科学取舍，积极推动。

（1）彰显地方特色：深化研究，形成共识。保护已然明确且在落实，但申遗需要切实的展开调查、深入研究，彰显突出的普遍价值，并使国际社会接受，这无疑需要达成共识，并规范行为指南。我们可以这样

认为:瓷器起源地是独有稀缺的资源，南水乡古镇是江南味道的体现，闽浙木拱廊桥则是巧夺天工的创造等，都是地方特色的完美体现。

（2）夯实工作基础：加强保护，制止破坏。申遗是一个动态的、长期的过程，申遗前后，均需持续、有效的保护遗产对象及其生存环境，因此，像良渚遗址的申遗，全面规划相关区域的经济社会发展布局，切实保护、有效利用，就成为重要的课题和切实的行动。

（3）弥补空缺环节：钱江潮与古海塘，是千古自然奇观与杰出人文创造的代表，历史上，二者相成相依，福祸转换变幻，见证了钱塘江河口的自然变迁与人文演进，现实中，作为自然与人文遗产融合共生、交相辉映的罕见遗产对象，日益受到关注。鉴于其特殊的自然景观现象、重要的水利工程属性，兼及其所处地域文化内涵丰富、文化意境深邃、文化特质鲜明，在国内外更加重视保护人类共同遗产的环境背景之下，作为自然、文化属性与价值内涵高度结合并存的罕见遗产，理应成为申报世界遗产的热点。

2.5快速寻求突破的手段

（1）搭便车：捆绑申遗。作为浙江地域文化特色体现的青瓷文化及遗存，因暂时难以安排单独申遗，而“海上丝绸之路”拟在2018年申遗，则完全可以将部分窑址（如宁波慈溪的上林湖窑址等）捆绑其中，搭上便车，先期申遗。

（2）辟蹊径：申报双遗产。浙江尚无双遗产项目，而钱江潮与古海塘却是完美的双遗产项目组合，二者相伴相生、相得益彰，不应偏废、不可或缺，其中单一的项目申遗，在现实环境中难度明显，二者协同、形成合力，或可丰富内涵、突出价值，从而增大胜算。

（3）求支持：政府特别支持。良渚文化是浙江史前文明的代表，良渚遗址的申遗在遗址发现80年后的今天，得到高层对其申遗的重视与支持，列入2019年上会审定的安排。同样的，其他富有浙江地域特色的文化对象如钱江潮与古海塘等，也应不懈努力，争取更大支持，早日达成愿景。

2.6案例分析：钱江潮与古海塘的申遗

以上研究与工作思路，可以在推动钱塘江与古海塘的申遗过程中加以实践。（注5）

（1）背景概述

钱塘江出杭州湾入东海，因其喇叭形河口的独特地势，催生了天下闻名的钱江涌潮。钱塘江涌潮气势磅礴，催生了涌潮奇观、咏潮诗文、观潮习俗、御潮技艺等众多历史遗产，一直以来就是涌潮研究关注的焦点。

更为重要的是，为抗拒咸潮入侵，千百年来，钱塘江河口两岸人民修筑了堪称天下奇观的古海塘。古海塘建造历史悠久，分布绵延千里，建筑工艺复杂，相关遗存丰富，成为与古长城、大运河齐名的中国古代三代水利工程之一，誉称“海上长城”，是中国古代伟大的建筑、科技和文化遗产之一。

（2）现状评估

古海塘遗存，分布于钱塘江河口两岸，绵延千里。北岸海塘在杭嘉湖平原南缘，又称浙西海塘，南岸海塘地处宁绍平原北侧，包含萧绍海塘、百沥海塘、浙东海塘等。这些遗存虽历经千年，线形仍基本连贯、主要段落保存完整，塘身构造及体系脉络清晰。正因为存在冲击扰动较多、研究不够综合、系统保护欠缺、利用不尽合理等问题，更显申遗保护的迫切。

（3）内涵认知

对遗产对象的科学、全面认知，是保护和利用文化遗产的基础，唯有全面认知，才有可能科学概括其

注5：长城、运河已分别于1987年、2014年列为世界文化遗产。我省现有的7处申遗预备名单中，尚未纳入钱塘江古海塘。据《保护世界文化和自然遗产公约》：凡提名列入《世界遗产名录》的文化遗产项目，必须符合六项标准中的一项或几项（列入《世界遗产名录》的自然遗产项目必须符合四项中的一项或几项标准）并获得批准，方可入列“世界遗产”名录，钱塘江古海塘本身起码符合4项标注，钱江涌潮也符合2项以上标准。2015年全国人大、政协两会已接受代表提案，开始推动钱塘江古海塘申遗工作。

内涵价值，提炼、升华其突出普遍的遗产价值，为保护提供基础依据。

古海塘是物质的存在和具象的遗产，其物质文化遗产的内涵体现极为丰富，包括了海塘本体文物、海塘相关水利工程设施遗产、海塘相关文物以及海塘相关名胜古迹等。与古海塘相关的非物质文化遗产内涵同样丰富，包括故事传说、音乐舞蹈、祭祀崇拜、人物纪念、禁忌习俗、生产习俗、地方物产等，其中传说习俗等表现为纯粹的非物质形态，祭祀崇拜等依托于物质本体、组合成丰富多彩的海塘非物质文化氛围。

古海塘的衍生文化内涵丰富多彩。分析钱塘江古海塘的复杂成因，主要有地理因素、科技进步和文化氛围影响等，可见海塘并非是纯粹的工程项目，而是地域文化发展的综合产物。在海塘体系和海塘工程的建造过程中，凝聚成完整的海塘科技体系。海塘使用过程中，管理也形成体系，包括了制度（施工定式、工程管理、奖惩制度等）、机构（地方政府、专职机构等）、人员（专管人员、代管人员、军队捍江及修江的营汛组织等）、经费（政府筹拨为主，也有税课、捐助、罚没等来源）等。历代与海塘相关的志书、论著、策议、奏疏、记述等成为重要的研究资料。与钱塘江古海塘休戚相关的海塘文学，则成为古海塘文化须臾不可分割之组成部分。

（4）价值评估

海塘的文化遗产价值体现在：物质文化遗产价值和非物质文化遗产价值两个方面。文化遗产衍生价值体现在：科技遗产价值、生态遗产价值、管理文化价值、文献史料价值和文学遗产价值等方面。钱塘江古海塘是足可资用的重要资源，体现在综合管理利用价值（军事管理、行政管理、工程管理等）、文化保护传承价值（物质文化遗产、非物质文化遗产）、旅游开发利用价值（旅游开发利用、文化保护传承的重要对象与载体）等诸多方面。

（5）优势分析

古海塘具有文物的基本价值，是物质的存在，真实而完整，具有明显的历史、科学、艺术和社会价值。古海塘与钱江潮相伴而生、相互影响，潮是自然现象，塘为人工产物，由此使其兼具自然和文化双重遗产价值，凸显其保护利用价值，具有遗产的综合价值。

世界遗产是值得人类共同拥有的特殊遗产对象，它必须具有“突出的普遍价值”，对照世界遗产申报的价值条件，钱塘江古海塘大多具备，申遗的先天条件极具优势。

自然方面：钱江涌潮是世界三大涌潮之一，人文意境最为独特。钱塘江与南美亚马逊河、南亚恒河并列为“世界三大强涌潮河流”，但它地处人文中心，涌潮的人文内涵远非他处可比。

人工方面：钱塘江古海塘是中国古代三大建筑工程之一，价值意义最为重大。钱塘江古海塘的时间跨度、建筑成就、功能体现等，在中国最具代表性的三大建设工程中，最为突出。同时，长城代表陆地型（山），大运河代表平原型（水），海塘能代表海洋型（海），凸显特色。

融合方面：钱江潮与古海塘，自然人工结合天成，普遍价值极为突出。在保护文物本体的同时日益强调相关环境保护的今天，作为特殊的巨型的线性遗产对象，古海塘与钱江潮相伴而生、相互影响，潮是自然现象，塘为人工产物，由此使其兼具自然和文化双重遗产价值，凸显其保护利用价值，或者说它的综合社会价值巨大。其特色在于：一是自然与人文结合，千古奇观钱江涌潮与海上长城古海塘相互辉映、合成双壁；二是文物与非遗结合，具有深厚的人文历史积淀；三是独具浙江地域特色，是浙江地域文化与人文精神的代表。

钱塘江海塘与万里长城、京杭大运河并称我国古代三大建筑工程。比较而言，钱塘江海塘建设过程中，人们对地形地貌地质，天文潮汐灾异，乃至工程材料、工程技术等的认识不断加深，海塘体系不断完善，工程技术不断提高，其建设更为艰巨，科技含量更高，是杰出的建筑遗产，对后世的影响巨大。钱塘江

古海塘至少符合半数以上世界遗产入选标准，有较为充足的申遗条件。（注 6）

（6）操作建议

我国现已列入世界遗产预备名单、等待申报冲刺的项目，不在少数，申遗难度较大。作为浙江母亲河的钱塘江又名浙江，省名即源于此，河口两岸又是浙江经济文化繁盛之地，可谓举足轻重。将古海塘作为浙江地域的杰出代表，当不为过。钱江潮与古海塘，承载的文化分量尤其厚重，这就需要政策倾斜和合力扶持，将其作为“浙江”的代表，且从“文化与自然双遗产”角度去开展工作，应具有充分的理由。

三、管理对策

3.1以保护为申遗工作基础

保护好遗产是申报的前提和利用的基础，这就需要全面和动态的保护。

（1）全面保护。一是保护完整的界域，需遵循遗产保护的真实性、完整性、延续性原则，保护遗产的界限（遗产边界）、形态（遗产表象）。二是保护完整的内涵，保护物质文化遗产（遗产内涵的核心构成）、非物质文化遗产（遗产内涵的诠释材料）和景观环境要素（遗产内涵的环境依托）。三是保护技术的完善，保护遗产需要包括思路、方法、手段、材料等在内的技术支撑。针对有形的物质文化遗产对象，还需注重文物维修技术与方法的总结推广。

（2）动态保护。一是正确处理保护与发展的矛盾。日新月异的城乡发展对遗产造成潜在威胁，而在遗产区内部，人为活动也不断加剧，对遗产同样造成日益增大的影响，为此，遗产环境的维持成为保护的重要课题。二是加强监测与管理。首先是加强日常监测管理，针对性地发现问题、解决问题；其次是长期坚持监测管理，并不断完善机制，不断扩大监测覆盖面，不断深化监测指标内容。2016 年 9 月 14 日正值中国传统的中秋佳节，第 14 号台风“莫兰蒂”影响浙南泰顺县，境内河水暴涨，使得列入申遗预备名单的三处全国重点保护文物泰顺廊桥之薛宅桥、文重桥与文兴桥瞬间被洪水冲毁，虽然各级文物主管部门及时抢救并随即批复同意复原，但毕竟已影响到了闽浙木拱廊桥的申遗工作。可见，监测预警及配套管理措施在世界遗产申报及管理过程中，确需加强。

3.2以申报促进保护研究与管理

（1）申报过程可促进研究的持续深入和保护工作的有效推进。世界遗产申报难度越来越大、管理要求越来越高，使得我们必须加强认识与研究，全面合理、充分深入地评估相关资源（如史前文明的代表—良渚遗址，世界瓷器起源与传承发展代表—德清原始瓷、上虞成熟瓷器、慈溪上林湖越窑、龙泉大窑遗址等，江南水乡古镇代表—南浔、新市、乌镇、西塘，木拱廊桥传承代表 -- 泰顺、庆元、景宁等，旷世奇观钱江涌潮与海上长城古海塘，等等），在价值评估方面，强化地域特色、突出稀有对象、提炼普遍价值等方面的研究，并对其近年来的保护管理与后续的利用前景进行客观的持续性评估，合理选择、定期更新相关的名录对象，从内外动因、现实条件、前景展望等方面评估申报可能，并从政策、理念、技术、方法等方面着手，切实加强保护管理研究，以保护遗产，提升影响。

（2）保护管理的相关课题研究必须加大力度。一是遗产管理的理论研究，完善政策配套，健全机制机构，加强理论探索。二是遗产本体的保护维修，加强日常保养维护，改进修缮保护技术。三是遗产环境的风貌控制，以规划、管理加强建设控制。

（3）动态调整应结合调整申报思路及加强管理措施进行。根据遗产价值及操作可能，将价值最为突出者或操作可能性最大者，优先列入申遗名单及操作流程，需要我们综合研判，更需要我们加强管理措施的

注 6：黄斌：《钱塘江古海塘遗产认知与保护研究》，载《浙江省文物考古研究所学刊》第 10 辑，北京：文物出版社，2015 年

落实，使符合条件的对象不再错失良机。

3.3以完善管理提升保护利用水平

已有世界遗产的申报管理为后续的申报及管理提供有益的经验与借鉴。

（1）研究评估注重系统性和全面性。鉴于遗产影响评估的复杂内涵，相关的遗产保护专业研究机构应能广泛参与，保证影响评估的研究体系完整、内容充实。遗产的多重特性，使得多学科、跨行业研究势成必然，全面探究问题根源，谋求解决之道，才能真正促成对遗产的全面保护。

（2）社会参与注重全民性和动态性。世界遗产保护理念中兴起的“社区意识”表明，世界遗产是人类共同财富，具有全面的”社会属性”，因此，社会各界、各阶层的全面参与，会使世界遗产的社会性、全民性得到更大提升。遗产向公众开放势必使其受到社会发展的深度影响，因此，对遗产的各类价值与影响评估，除应加大本体保护环境的变化影响外，更应科学、合理地纳入地域的科学发展之中，社会环境变化的动态性，社会进步的动态性，对我们保护世界遗产，时刻都在提出动态性的要求。

丰富的文化遗产资源对象需要保护，更需要提升管理水平。申报世界文化遗产是促进保护利用的重要手段。申报需要深入研究，深挖价值，凸显特色，也需要方法创新、手段出奇。

申报世界文化遗产重要的不是目的，而是过程。全民保护、全面管理才是申遗的本质要义。

（全文完）

参考文献

联合国教育科学和文化组织保护世界文化和自然遗产的政府间委员会：《实施保护世界文化与自然遗产公约的操作指南》（2013年，中文版）